

令和元年度 榛生昇陽高等学校 学校評価総括表

<p>教育目標</p>	<p>日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性をそなえた国民の育成を目指す。</p>		<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>基本的な生活習慣の確立と学力の向上を目指すとともに、リーダーを育成する（生徒の変容）</p>		
	<p>教科指導力及び生徒指導力の向上を目指し、指導法を弛みなく探究する（教師力の向上）</p>		
	<p>各分掌や学年が機能するよう、部長・主任がリーダーシップを発揮し、意思の疎通を図るとともに、適切にアドバイスする（組織力の充実）</p>		
	<p>報告・連絡・相談の徹底と迅速な対応に心がけるとともに、保護者への連絡を密にし、家庭との連携を図る（リスクマネジメント）</p>		
	<p>各科、コース、部活動、生徒会等が連携して地域交流を積極的に展開し、社会に貢献する態度を養う（地域連携の推進）</p>		
	<p>効率的な業務の遂行に努め、職場改善を推進する（職員の健康管理）</p>		
<p>○平成30年度の成果と課題</p>	<p>本年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>B</p>
<p>生徒の基本的な生活習慣について、一定の成果はあったと考えるが、遅刻指導の改善などの重点的な取組は、次年度以降も継続指導の必要性を感じた。</p> <p>また、学校全体の規範意識の向上も徐々にではあるが見られるようになった。さらに指導方法の改善が必要である。</p> <p>基礎学力の充実に向けては、PDCAサイクルを構築し、観点別評価に向けた取組が必要である。</p>	<p>基本的な生活習慣を確立し、正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め自主的な生活態度を育成する</p>	<p>ルールを守る心を育て、礼儀やマナーを身に付けさせる。</p> <p>自らの健康を保持増進できる実践力を育て、安全や時間を管理する力を養う。</p> <p>最後まで、あきらめないで、努力を続ける力を養う。</p>	
<p>生徒の希望進路を実現させるために、全職員が更に意識を高め、学習の改善・工夫や家庭学習を充実させる取組を進展させていく必要がある。</p>	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着により、着実に学力を向上させる</p>	<p>観点別評価に向け、PDCAサイクルを構築し工夫・改善する。</p> <p>学んだことを活用する力の育成と主体的・対話的で深い学びを実践する。</p> <p>学習支援を必要とする生徒への対応を検討する。</p>	
<p>地域連携については、これまでの取組に対する一定の評価は得られているが、学校全体としての参加体制にはなっていない。今後、こども・福祉科（総合学科）や専攻科の設置、宇陀高校開校に向けて、さらに地域との交流を深め、広報活動をもっと積極的に行う必要がある。</p>	<p>自己理解に基づき、自己実現への積極的な態度を育成する</p>	<p>キャリア教育の推進を図る。</p> <p>各種検定の受検および資格取得の推進を図る。</p> <p>進学・就職の実力養成講座の充実を図る。</p> <p>個に応じた指導に積極的に取り組む。</p>	
<p>命を大切に、他者への思いやりの気持ちに満ちた豊かな心を育む</p>	<p>命を大切に、他者への思いやりの気持ちに満ちた豊かな心を育む</p>	<p>介護施設や教育施設等への実習を充実させ、命の大切さや思いやりの心を育む。</p> <p>人権尊重の精神と生命に対する畏敬の念を深め、他者とともに主体的に生きる能力と態度を養う。</p>	
<p>自発的・自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる</p>	<p>自発的・自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる</p>	<p>地域との交流を積極的に推進したり、ボランティア活動に積極的に参加したりするなど、社会に貢献する態度を養う。</p> <p>生徒会・各種委員会活動や部活動を活性化させ、達成感をもったり、社会に貢献する態度を養う。</p>	

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
総合企画部	式典や行事の企画・運営の円滑化	実施要項・内容の検討	○各種式典での職員の役割分担と業務内容を明確にする ○オープンスクールについては、参加者に一層わかりやすい内容にする	○全職員の意思統一、協力を得ながら式典・儀式が滞りなく運営できるようにする ○オープンスクールは年2回開催し新設の総合学科の説明について重点を置く	○各種式典は概ね計画通りに運営できた ○オープンスクールは、参加者がその内容に満足感があったと思われる ニーズに応えるべく、さらに内容や実施方法等を検討したい ○始・終業式の準備ではクラブ員の協力を得ている	A	○オープンスクールは来年度も年2回実施する ○専攻科についても実施の方向で計画する ○始・終業式の準備について、部活動に支障のないように再考する	
	広報活動の充実と各種団体運営の活性化	広報資料・方策の工夫 育友会・同窓会・模生会の事務局運営の円滑化	○学校Webサイトで、より迅速・正確な情報発信を行い、閲覧回数が増えるように頻りに更新する ○地域社会の適正な評価を得るための広報を充実する ○各団体と良好な関係を保ち、誠実な事務局運営に努め、多くの賛同をいただける環境を整える ○周年行事に向けて、具体的な方策を構築する	○広報すべき内容を精選し、更新を年間12回以上行う ○マスコミへの情報提供と取材依頼につとめ、中学校・地域社会への資料提供を年5回以上行う ○各団体と良好な関係を保ち、学校理解・支援のネットワークを作る ○各総会の参加者数を3割増加させる ○百周年記念事業については、実行委員会を立ち上げ、業務内容を検討する	○広報資料は刷新されより見やすくなった タイムリーな送付に向けて計画的に準備を進める必要がある ○Webページの更新、資料提供は目標回数には至らなかった ○育友会活動は活発に行われている ○毎年、新役員選出に際して一部の先生方に負担がかかっている ○百周年事業においては委員会を立ち上げることができた	C B	○Webページ担当者を分掌を越えて複数人にし、学校行事や部活動の紹介等を適切な時期に更新する ○近年はWebページの閲覧が増えているので紹介内容をさらに見やすく充実させる ○役員選出は現役員の方々に協力をお願いしてはどうか ○百周年事業準備委員会の発足に向けて担当者、役割分担を検討する	
教務部	基礎的な知識・技能の習得と定着のため、着実な学力向上をめざす	教育課程の実践と作成	○現教育課程を有効に実践する ○総合学科、普通科の教育課程を作成する ○新教育課程に向けての研究と作成する	○「わかった」と実感できる生徒の割合を80%以上をめざす(アンケートの活用) ○新教育課程作成の方針案を作成する	○授業アンケートで約60%の生徒が「わかった」と感じている ○宇陀高校に向けての新教育課程作成に取り組んでいる 大宇陀高校教務部と協力して調査研究中である	C	シラバスの確認と観点別評価を取り込んでいきたい	高等学校再編により、在校生の指導をしながら、新たな総合学科や専攻科の開校に向けた準備をすることになり大変多忙な状況にあるかと思う。 部活動の入部率向上においても1年生から取り組んでいる。 宇陀地域も過疎化がすすみ若者の力が必要となり、様々なボランティア活動の依頼に応え取り組むとともにそれを指導する先生方の尽力に感謝している。 また、百周年を控えて多くの卒業生が社会で活躍しそれを後輩が引き継いでいる。なくてはならない学校になっている。今後の活躍に期待している。
		授業の工夫と教材の開発	○「学び直し」や「授業の工夫」「ICT機器の有効活用」によって、一人一人の生徒の力を最大限に伸ばす取組の積み上げを全校体制で進める	○各教科で工夫した取組を実施しそれを全体で共有できるようにする(授業公開の活用)	○宇陀高校に向けて新教育課程に取り組んでいる ○大宇陀高校教務部と協力して調査研究中である	A	引き続き、調査研究とともに教育課程を作り上げていく	
		学ぶ態度と活用する力の育成	○研究授業や研修講座への参加を通じ教科指導の実践力の向上に努める ○授業を中核にし、小テストや課題などを活用し、生活や学習に生活サイクルの定着をめざす	○全教員が、授業交流、研究授業、研修講座のいずれかに年間5回以上参加する 校外での研修も活用(New Education Expo等)	○日々の多忙さもあり校内研修への参加人数は少なく感じた ○授業交流への参加も少なかった	C	引き続き指導力向上のために校内外での講座やセミナーの参加とその報告を呼びかけていく	
		学習支援の充実	○学習支援、特別支援を必要とする生徒に対し学力向上支援員、特別支援教育支援員とともに適切に対応する	○各学期の欠点者数は各科目5%以内をめざす	○支援員、担任及び教科担当者も支援の必要な生徒に対し丁寧な指導に努めた 年度末の欠点者数は1、2年生共に5%以内に止まった	A	引き続き、丁寧な指導に努めていきたい	
進路指導部・総合選択コース	未来の展望をもち、確かな自己を大切にしながら社会に貢献できる人物の育成を図る	自己分析と成長	○自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち社会に貢献できる生徒を育成する そのためにSSシート・進路講演会や学年集会・個人面談などを通して自己を知る機会を提供する	○毎学期、学年進路集会を1回実施すると共に、講演会や講座なども1回開催する ○SSシートには具体的に毎日の目標を記入させる	○1年生は、キャンパス見学会を実施し、希望する分野の大学、短大、専門学校を見学した ○2年3年は進路相談会を実施しより具体的に進路目標を定めるきっかけとした ○SSシートにはほぼ毎日一言を書かせることで担任とのコミュニケーションを図ることができた	A	○今後もキャンパス見学会や進路相談会を通して自己を見つめ生き方を考えさせたい ○SSシートに目標欄を設け、毎日の目標を設定し自己を見つめさせる ○来年度からの、大学入学共通テストの情報提供	
		基礎学力の確立、向上と基本的マナーの養成	○四則計算や割合、漢字の読み書きなど義務教育範囲の基礎学力を確立する ○生徒指導部と連携をとり、服装、挨拶、敬語など社会人としての常識や基本的なマナーを身に付けさせる	○OneWeekトライアルを授業中に展開し考査範囲に含めることで学習意欲を高め基礎学力の確立に努める ○服装、敬語などは授業や講座以外の場面でも指導していく	○SSシート復習プリントは実施できなかった ○OneWeekトライアルは数学国語の授業中に展開し考査範囲に含めた ○挨拶、服装、敬語など基本的マナーに関して面接指導や学校生活の中で指導し就職試験、進学試験で好評価を得た	B	○SSシートやone weekトライアル、その他の教材を利用して、漢字の読み書きと計算問題を中心として一般常識を身に付けさせたい ○基本的マナーに関して先生方の協力の下、より一層指導していきたい ○面接指導は、3年生4月より指導をはじめ	
		各種検定試験、模擬テスト受験の推進	○漢字、英語検定の受験を軸に看護模試や数検など各種検定を受験することで基礎学力の定着を図る ○学習に対する動機付けや自己肯定感の育成とする	○漢字検定および英語検定3級以上の合格者を50人とする ○看護模試や各種検定、模擬テストのべ受験者数を200人とする	○漢字検定は2年生全員約160名が受験 結果はまだ出ていない ○情報処理検定3級は2年生情報選択者66名受験し合格者は約22名であった	A	○各検定について受験者をさらに募ると共に事前学習の充実、課題の提供で実力を養成したい ○国語科以外の授業教材も積極的に取り入れたい	
		インターンシップ、各種セミナー参加の奨励	○インターンシップに参加する中で、自己を磨き自己実現の機会を与え職業観の育成および自己を知る手立てとする ○看護セミナーや美容師体験など様々なセミナーを提供し体験しながら自己実現を図る	○インターンシップの参加者の合計を20人とする事前、事後指導も充実させる ○各種セミナーを年間3回実施する	○インターンシップ参加者は夏冬併せて3名 ○看護セミナーを8月に実施し宇陀市市民病院より看護副部長を講師に招いた ○先輩の話聞く会を8月に実施し福祉関係1名、一般企業2名の先輩を講師に招いた	B	○インターンシップ体験をする中で職業意識を高める ○看護セミナー以外にも生き方を学べるようなセミナーを実施したい ○先輩の話聞く会は3年生には良い刺激になるので継続して実施	

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策	
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る	ルールを守り、礼儀やマナーを身に付けさせる	○全校集会、学年集会、HR活動を通して規範意識の向上を図る ○外部講師を招きインターネットトラブルほか高校生の抱える諸問題について考えさせる機会を確保する	○アンケートなどを実施して、生徒の意識に変化が見られるかを見る	○授業中や昼休みの見回りも行っており礼儀やマナーについては向上しているが、特に女子生徒の間でSNSに関するトラブルが多い ○携帯電話に関するルールについてもさらに指導する必要がある	B	○SNSマナーを学ぶ機会を増やす、実際にあったトラブル例などを示し「より身近な問題である」と感じられるよう工夫する	教育週間に授業の様子を見たところ落ち着いた雰囲気を感じた。体育大会では活き活きとした生徒の様子が見られた。遅刻数は減少傾向にある。教科の特性にもよるが深い学びに向けた実践をすすめてほしい。 授業アンケートで「よくわかった」と回答80%を目指したが60%であったが、たとえ1ポイントでも上昇するよう取組をすすめてほしい。	
		時間を守り、安全、安心を確保する	○制服を適切な着こなしができるよう指導の指針を見直し指導方法を工夫する ○頭髪チェックについては生徒指導部が主導し学年主任や担任と連携し徹底を図る	○生徒指導部や学年主任会などで情報共有し生徒の現状について把握する	○頭髪・服装に関する規定をほとんどの生徒が理解し遵守できているため、頭髪等の確認に要する時間が短縮されてきている	B	○教師間の連携をより深めるよう意識する ○規則やルールを教師が共通認識できるよう明文化し生徒にも示す		
			○遅刻を減らし規律ある学校生活が送れるよう放課後の指導を強化する ○生徒指導部が積極的に関わり効果的な指導方法を模索する	○遅刻の状況を職員会議で共有し増加傾向か減少傾向かクラス間の格差についても分析を行う	○全体的には遅刻数が減少しているが、さらに減らせるよう指導の徹底を図る必要がある	B	A		○遅刻を繰り返す生徒に対し個々の性格に応じた指導を行う
			○生徒教師ともどもにチャイムで授業を始めチャイムで終わる習慣をつける	○入室カードの使用状況はどうであったか ○入室遅れの生徒が減少しているか	○チャイム前の入室は定着してきた。入室遅れについても減少傾向にある。	A	○入室カードを頻繁に使用している生徒の個別指導を徹底する		
			○登下校の見守り活動を組織的に確立し切れ目なく生徒の安全確保に努める	○登下校時の事故やトラブル苦情がないか	○登校時の事故やトラブルはなかった ○苦情件数も激減しており指導の効果が出ている ○通学路のゴミのポイ捨てが課題である	B	○登校指導の際に教師自らが通学路のゴミを回収し、その姿勢を生徒に見せることでポイ捨てに対する意識を変える		
		自律心を高め、自己の可能性に気付かせる	○生徒活動推進部による部活動、清掃活動、ボランティア活動、学校行事の取り組みをできる限りサポートし自己有用感 達成感を抱かせる	○生徒意識アンケートに変化が見られるか ○自己有用感達成感をもつ生徒の割合が増加しているか	○部活動も以前よりは活性化してきており自律的に行動できる生徒が増えてきている	B	○クラブ員集会で生徒指導部としての講話を設ける ○顧問会議や集会をもち、より一層部活動の活性化を図る		
教育環境部	人権意識の向上を図り、差別や偏見をなくし、互いを理解し、共に生きようとする資質や行動力を育成する	○人権教育の日常化を目指すとともに、その実現のためのスキルアップを図るための職員研修を充実させる	○あらゆる機会を捉えて人権教育の充実を図る ○「教職員の力量」を高める研修の充実、諸研修の広報の充実に努める	○全体研修は年1回以上を実施できたか ○他に外部研修及び自主的な研修のいずれかにすべての教員が最低1回は参加することができたか	○計画された研修は予定通りに実施できた ○校外で行われる種々の研修への参加は高人数研究会へ6名 奈人研究会へ1名にとどまった ○校外研修に参加できる体制を構築したい	B	○年度当初に、年間の諸研修会・講演会の予定を明らかにし早期に参加計画を立てやすくする	学年主任は良い意味で競い合うようにリーダーシップを発揮して、学年を良くしよう、生徒に頑張らせようという意欲が感じられた。 また、百周年記念事業に向けて学校とともに関係団体を含め取り組んでいきたい。	
		○人権三法の精神を尊重しつつ、新たな学習内容の創造・充実を図り、より効果的な展開のありようを工夫する	○人権学習ホーム計画を早期に立案し、事前打ち合わせでは教師自身が展開する内容について深い理解を得られるように努める	○分掌の段階での計画準備に十分に時間をとることができたか ○学年での打ち合わせに十分な時間を確保することができたか	○人権ホームに向けての準備は概ね計画通りに実施できていたが、ホームを実施するためのマニュアル説明だけに終始してしまった ○ホームを行うための教員の力量を高める取組が求められる	B	○現在のように人権ホーム指導案を教育環境部から示すのではなく、ホーム実施者(担任)が自ら作成し教育環境部はそれをサポートするという形をめざす		
		○生徒理解の深化、及びそれを踏まえた教育実践や支援の体制を充実させる	○生徒理解のための職員研修をはじめとしてSNEチームを中心に特別支援教育を進める全校体制を充実させる	○生徒理解のための研修の機会をどれだけ設定できたか ○具体的な支援の仕方を提示し実践できたか	○個々の生徒の特性や支援の必要性に関して年度当初の研修では概ね共有できた ○その成果をどのように支援に反映させるか今後の課題として体制づくりを行う	B	○共有すべき情報、支援のありようの検討を速やかに行う体制を作る		
	学校の環境美化を通して、生徒の環境保全に対する意識を高めるとともに命を守るための防災・安全に関するスキルを養う	○学校の環境美化と自ら環境を整備しようとの意識の向上を図る	○清掃活動の徹底を図るため環境整備委員と共に清掃用具の点検を行う ○美しい環境を作り上げようとする意識を育てる	○清掃用具・清掃状況の点検でおおむね80%のプラス評価があったか ○意識向上のための取り組みをどれだけできたか	○環境についての意識向上につながる啓発活動は6月の環境整備委員の清掃点検以外に行っていない ○通学路清掃などの在り方を検討する	C	○現在環境整備委員が行っている通学路清掃の参加者の幅を広げる		
		○施設・設備の安全と管理の徹底を図る	○施設設備の安全点検及び保守管理の実施 ○空調機設置工事中の生徒の安全確保の徹底 ○生徒が適切に使用する態度を育てる	○施設設備の正しい使用方法を啓発する機会がもてたか ○修繕を要する箇所に対して速やかに対処できたか	○今年度各教室にエアコンが設置され全教室のカーテンの交換など設備環境が大きく変わった 諸設備、備品の扱いに対する生徒の意識を高めるよう啓発に努めた	B	○掲示物などで各施設を大切に使うように啓発活動を行う		
		○地震・火事等の災害時における安全の確保についての意識の向上を図る	○安全確保について正確な知識を身に付けさせ それに基づいた行動ができるよう指導を徹底する	○防災訓等を通じて非常時での対処法について啓発する機会をもつことができたか ○防災意識を高めるような取り組みを行ったか	○防災関係に関する諸行事は概ね計画通りに実施できた ○消防署員から昨年以上の好評を得た今後さらなる向上を目指したい	B	○生徒の防災意識向上のための大きな要因は教員自身の意識のありようにある職員研修では避難方法のマニュアルにとどまらず、職員自身の意識向上につながるもの考える		
保健体育部	生涯にわたり心身ともに健康でたくましく、活気に満ちた生活を営む基礎的・基本的な態度を育成する(体力の向上、食育の推進、健康習慣の確立、部活動の活性化)また、学校安全・衛生環境の維も・充実を図る	生徒自らが健康課題を見つけ解決するために適切な指導支援を行う	○防衛体力・自己管理能力を高め保健室の利用者を減少させるため「保健たより」「食育たより」を通し「健康」について啓発・啓蒙に心がける	○保健室利用者 昨年度より10%減	○保健室の利用状況は昨年より微増している 自己管理能力を高めていくことをさらに啓蒙する必要がある	B	○来年度も保健室利用状況10%減を目指し他校の実情を調査するなどあらゆる方策を模索する		
		運動部活動に関する安全管理・安全指導体制を徹底する	○事故を未然に防ぐために設備器具等の安全確認することを生徒に周知徹底する	○運動部による事故、熱中症生徒、昨年度より10%減	○設備器具の安全点検は随所で徹底している 大きな事故もなく未然に防いでいるといえる	B	○設備器具で危険箇所の有無を精査する ○熱中症対策ではWBGT計を有効活用していく		
		「健康」に興味・関心をもたせスポーツの楽しさ身体を動かすことの意義を理解させる	○体育行事により興味・関心をもてるよう企画をし運営する	○体育大会・マラソン大会参加率98%以上、新体力テスト偏差値48以上	○マラソン大会は3年ぶりの開催だったが生徒は活き活きと参加した 天候に左右されこともあり実施の見直しも含め検討する	B	○体育行事は生徒が活き活きと感じる企画していく		

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
生徒活動推進部	自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる	生徒会、各種委員会活動の活性化	○自主的・自立的に行動できる生徒の育成を目指し、生徒自ら企画・実践を行い成功体験ができるよう指導する	○各種活動において生徒会本部役員、各種委員委員長、クラブキャプテンが集まり生徒主導型で計画を立案し運営できるように指導する	○今年度はリーダーを対象とした研修や会議をほとんど開催できなかった ○文化祭では例年以上に生徒会本部役員中心に企画運営を行うことができた	C	○リーダー会議を定期的に開催する ○文化祭実行委員会委員を早期に募集し生徒会本部役員を中心に企画・運営ができるよう指導する	「宇陀こどもフェスタ」に生徒が参加協力をしてくれることに感謝している。学校はこのような機会を通して生徒たちが成長する機会となることを目的に参加させてくれているが、フェスタ実行委員の中には単に便利なお手伝いとして考える者もいる。 13年間生徒を見てきて生徒も先生方も少し元気がなくなってきているようにも感じられる。フェスタ運営に関して意見をいただきたい。
		部活動の活性化	○部活動加入率の向上を目指すとともに、生徒の実態に応じた部活動の活性化を目指す	○新入生への勧誘活動を活性化させ、部員集会、部員研修会を定期的実施し部活動生徒の意識を高める	○部活動加入率は約45% 勧誘活動は各部の取組に依存している現状があるので改善していく必要がある ○部員集会、部員合同研修会で教員による講話を計画し実施できた	C	○新入生の部活見学期間を設定し部活動加入率向上への取組を学年と連携して行う ○部員集会の内容の充実を図る	
		芸術や文化に親しむ態度の育成	○朝の読書や読書に親しむ会を中心に読書習慣を身に付けさせ、豊かな人間性を育てる	○朝の読書に集中して取り組めるよう読み聞かせや放送での実施など内容を工夫する ○今後も読書活動の啓発を積極的に行う	○各種文化図書活動を計画通り実施した 朝の読書も昨年度同様に充実したものになった ○今後も読書活動の啓発を積極的に行い芸術、文化に親しむ態度を育成したい	A	○朝の読書に集中して取り組めるよう読み聞かせや放送での実施内容を工夫するなど今後も啓発活動を積極的に行う ○朝の読書を毎日10分間実施するなど再編統合に向けて実施方法を検討する	
		地域交流および貢献活動を推進	○地域とともにある学校づくりをさらに充実させ、様々な活動に学校全体で参加できるような体制づくりを目指す	○地域貢献活動に多くの生徒が幅広く参加できるよう参加案内や啓発方法を工夫する ○活動後の報告を校外に向けてPRを行う	○近年地域からの問合せや依頼が増加しその内容は充実し体系化してきた一方、参加範囲の精査、教員の引率体制の再考が必要である	B	○地域貢献活動に多くの生徒が幅広く参加できるよう参加募集や啓発を工夫する ○参加範囲の精査、教員の引率体制の再考を行う	
人間探究コース	将来小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を目指す生徒を養成するコースとして、より豊かな人間性を備え、なおかつ、地域社会に貢献することのできる人材を育成	保育施設実習の充実	○宇陀市を中心とした近隣地域の保育施設と緊密に連携し、実習や行事補助ボランティア等を通じて生徒たちの幼児教育への理解を深める	○事前・事後指導の充実・徹底を図るとともに毎回レポートの提出を義務付け経験したことの着実な定着を促す	○新たな試みとして長期インターシップ(3週間)が榛原幼稚園・榛原北保育園を実習先として始まった ○佐保短期大学との提携も果たしこれを機に充実した実習活動を展開し次年度から始まる「こども・福祉科」につなげる	A	○従来の実習に加え、3週間の長期インターシップも始まり各施設とのこれまで以上に綿密な連携を行い実習前後の指導についてより一層の充実を図る	活動場所までの移動手段、拘束時間数×人数、打ち合わせ件数、打ち合わせから生徒代表者も入っているのかなど、次年度にデータ集積をして評議会に示すことで、具体的な改善点が見えてくる。 3年間で徹底して生徒には生活面の基礎基本を植え付けてほしい。
			○地域社会のボランティア活動(地域の祭り等)やユニセフ募金活動への参加を通じて将来、地域社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成する	○地域ボランティアやユニセフ募金活動への参加を年間を通じて一人5回以上行う	○図書館フェスタ、自閉症スペクトラム児のための教室など地域社会でのボランティア活動が増加、年間を一人5回以上参加目標は達成できた一方、活動数も飽和状態に近づき活動の精選が必要である	A	○地域との関係性を重視しつつも数多い協力要請に対応が難しくなっている状況から今後は参加活動を精選しながら取り組む	
福祉科	○社会福祉に貢献できる人材の育成	○国家試験合格者の向上	○国家試験対策講座を夏と冬に実施する ○医師・看護師等の講師を確保する ○社会人非常勤登用講座を計画する	○3年生対象に年2回国家試験模擬試験を行い約80%の正解率を目指す ○「こころとからだの理解」105時間の授業を担当する医師・看護師を探す ○社会人講師(年間25時間)の授業を実施する	○3学期放課後に毎日国家試験対策講座を実施した12・1月実施の授業効果が大きい国家試験平均点は自己採点結果81/125点と目標を達成できた ○新規医師・看護師講師は未だ見つからない ○社会人講師授業を計画通り実施できた	A	○国家試験対策授業についてより効果的な手法を研究し合格率100%を目指したい ○専門職による授業の増加を目指しより多くの関係諸機関との連携を図りたい ○引き続き医師・看護師講師を探す	今後ますます少子化が続く中、若い方が地域に残りにくい状況がある。しかし、こちらの卒業生が毎年就職してくれてリーダーとしての自覚をもち活躍してくれていることに感謝している。 昨年は老施協全国大会で卒業生が発表し最優秀賞を受賞した。また、法人15施設の中で学術研究会を毎年高い評価をいただいている。 一方ですべての方がリーダーになるわけではないが、今後指導力の向上をめざして、「こども・福祉科」を運営していく校内組織が必要 ○学科改編について中学生及び実習施設、卒業生にも周知理解を得られるよう取り組む必要がある ○来年度は専攻科設置校内準備委員会も必要となる
		○施設での介護実習の充実	○昨年度実習欠席による補習対象者は20名(1年3名、2年7名、3年7名)補習日35.5日(1年4日、2年21日、3年10.5日)となり対象者の増加による補習日が長期化傾向にある 計画通りに実習日程を終えるようにしたい ○巡回指導や反省会でうかがった指導者様の意見を情報共有し足並みをそろえた指導を行う	○欠席補習人数・欠席補習回数を40%減らす ○毎回校内実習前に服装・頭髮点検を行い現場実習に対する意識を高める ○巡回指導を週2回実施し指導記録をとり情報共有を図る	○欠席補習対象者10名補習日14日と昨年度より40%以上減、目標を達成できた ○巡回指導は規定通り実施できた 巡回記録を通しての情報共有を徹底していきたい ○授業前の服装・頭髮点検実施によりいつでも施設実習にいける状態になっている継続して指導していきたい	A	○校内実習での取組状況がよいと実習補習日も減少する充実した校内実習を行いより学びの多い施設実習にしていきたい	
		○「こども・福祉科」の設置準備	○人間探究コース長と協力し準備委員会を立ち上げ設置準備を行う ○中学校への広報活動を行う ○実習施設への協力依頼を行う	○準備委員会の設置を承認され検討会議を3回以上行う ○総合企画部と協力し「こども・福祉科」の中学生体験入学を実施する ○実習施設を訪問し協力を求める	○こども・福祉科の会議を5回実施し報告書を作成できた ○年2回の中学生体験入学を実施できた 体験授業の内容を精選していきたい ○福祉施設を17施設訪問 介護人材確保対策協力により老人福祉施設協会・奈良県看護協会にも依頼できた	A		

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第一学年	学習指導について	基礎学力の向上を目指し ○日々の授業を大切にする ○積み残しのない学習を心掛ける	①個々の能力に応じた丁寧な指導に努める ②個に応じた具体的な目標・目的をもたせ達成感を感じさせる ③SSシートの問題を積み残さないよう取り組ませる ④朝の読書タイムを利用し読書の習慣を確立する ⑤春講座への参加を促す	①授業アンケートで、本人の取組、理解度に関して肯定的な回答率80%以上を目指す ②必要に応じて個人面談し目標設定の確認を行う ③SSシートの活用や個人面談により生徒個々の目標・目的を個に応じたものか把握する ④各学期の終わりに感想文の提出を行う ⑤講座の成果が検定などに反映するよう連携する	①授業アンケートで、本人の取組、理解度に関して肯定的な回答率80%以上には僅かに下回り未達成であった ○SSシートを本来の目的として活用されず適切に取り組めていない状況がある ○春講座等への参加者が少なく進学意識の低さが見られた	B	○未達成の原因の一つとして教師主体の授業が考えられる、生徒が意欲的に参加できるアクティブラーニングを取り入れ達成感をえられる授業改善の必要がある ○SSシートは形骸化している感があり今一度その必要性も含め検討の余地がある	「廊下に教員のいない時間をなくす」とはどのようなことか。
	生活指導について	○遅刻欠席をしない ○部活動の入室を促す ○挨拶の励行、正しい言葉遣いの徹底を目指す	①家庭と連携し遅刻複数回は主任指導を行う ②適切な挨拶や言葉遣いが進路実現の大前提であることを理解させる ③部活動の加入率を上げる ④教員の授業間巡視の励行	①遅刻総数300以下を目指す ②月1回進路HRを行い基本的生活習慣の確立が進路実現に向け大切な事を説明する ③学年の40%の加入生徒を目指す ④廊下に教員がいない時間をなくす	○遅刻について担任による当該生徒及び家庭への連絡を密に行った結果総数300以下を達成した ○部活加入率には40%以上に達したが退部者も出てきているので対策を検討する ○学年教員の協力で廊下巡視活動は常に教員が生徒を見守る状態を保てた	A	○遅刻については継続して本人、保護者、教員の三位一体の形を継続する ○部活動退部者には、本人へのアプローチとともに保護者への声かけ、担任を含めた多方面からの声かけが大事である ○教員の部活指導に関する研修も必要である	
	進路指導について	自己の進路を見つめさせるため ○積極的に行動を起こす ○機会の提供をする	①進路室や進路室前の資料を見学する機会を持つ ②三者懇談時に保護者にもオープンスクールへの参加案内をする ③視聴覚教材を用い就業についての興味を持たせる	①体験前事前アンケートを取り意識の変化を確認する ②保護者に対しても資料・情報提供を行う ③興味を持った仕事や学校のレポートを作成する	○定期考査及び日々の学習活動に追われ卒業後の進路に展望を抱けていない	C	将来的な展望が難しい面があるので ○卒業生、家族、親族など身近なところから職業調べを行いイメージを持たせ実感させる事が必要	
第二学年	学習指導について	基礎学力の向上を目指し ○身に付けたい力・必要な学力を明確にする ○積極的に自主的な学習態度を育成する	①個々の能力に応じた丁寧な指導に努める ②具体的な目標・目的をもたせそれを達成するための努力をさせる ③家庭学習習慣の定着を図り家庭学習課題等を課す ④朝の読書タイムを活用し言語能力の育成を図る ⑤検定クラブと連携し放課後講座で実力の養成を図る	①授業アンケートで、本人の取組、理解度に関して肯定的な回答率70%以上を目指す ②SSシートの活用や個人面談により生徒個々の目標・目的を把握する ③各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す ④朝の読書タイムを継続的に実施する ⑤実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し生徒参加率を高める	①授業アンケートで、本人の取組、理解度に関して肯定的な回答率は1学期76%、2学期72%と評価指標を上回った ②SSシートの丁寧な取組により生徒の小さな変化に気づき積極的な生徒指導を行うことができた ③定期考査前には補充講座を行い学力補充に努めた ④年間を通じて落ち着いた環境で読書を行うことができた ⑤大学進学希望者を中心に放課後講座を実施したが参加生徒数を増やせなかった	B	○生徒個々の能力に応じた指導 ○より一層積極的な生徒指導の取組 ○進学希望者を対象とした実力養成講座の実施	
	生活指導について	○規範意識を高め基本的生活習慣を確立させる ○強い意志で自己を律していくとする生徒を育成する ○自校に誇りをもつ生徒を育てる	①問題行動を未然に防ぐよう積極的な生徒指導を行に努める ②道徳教育、人権教育を行い人としての在り方生き方を大切に育てる ③自主性を尊重し学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる ④チャイム着席、遅刻指導、服装指導を学年教員全体で行う ⑤学校行事や部活動の充実をはかり、社会で活躍するための力を身に付ける	①いじめアンケートを各学期に1回実施、定期的な校内巡視を行う ②学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する ③HR、学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する ④遅刻総数を昨年(453)の半分以上になるように指導を強化する ⑤修学旅行参加生徒の割合100%を目指す	①いじめアンケート、生活アンケートを実施し予防的教育相談を行った ②集会を通して規範意識の向上や行事への参加意識の高揚を図ることができた ③HR、学校行事、ピースリーディングを通して、生徒の自主的な参加を促した ④遅刻総数1学期/138回 2学期/213回と昨年より減少したが目標値には達しなかった ⑤100%の参加とはならなかったが不参加生徒は1名に止まった	B	○年度当初の大目標「遅刻数を昨年より半減させる」を達成できなかったが、昨年より約2割削減できた、遅刻指導は従来の指導に加え重複者には早朝登校しての清掃活動を試みた結果、減少につながったと考えられる 次年度も引き続き遅刻指導を実施し遅刻減少に努める	
	進路指導について	○自己を客観的に見つめ、進路と向き合い、進路目標に対して努力させる	①進路ノートの活用、キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の将来設計を抱かせる ②各種検定試験、資格試験、オープンキャンパス等への参加に挑戦させる ③進路指導部や教務部と連携し基礎学力の向上はもとより実力養成と意欲高揚を図る	①SSシートや進路のしおりを活用し個々の生徒の状況を把握し、きめ細かな進路指導を行う ②英検、漢検等資格検定を1つ以上取得する生徒の割合が50%以上を目指す ③実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し生徒参加率を高める	①個々の生徒の状況を把握し次年度を見据えて進路指導を行うことができた ②高いレベルを目指して全員漢字検定を受験をした ③日々の授業や定期考査に向けて補充講座を継続的に実施できた	C	一部の科目で進学講座を実施した、一般入試・大学入学共通テスト等を利用して大学進学を目指す生徒もいるので、サポート体制を構築する	
第三学年	学習指導について	基礎学力向上のため ○課題や小テストを課すことで家庭学習習慣を付け積極的な学習態度を育てる ○各々の進路実現に向けた学力向上を目指す	①各教科において丁寧に個々の指導に努める ②具体的な到達目標をもたせ、達成感を抱かせる ③教科の補充講習会を開くとともに質問日を設けより個別にきめ細やかな学習指導ができるようにする ④進学希望者や成績上位者に対して勉強方法を学ぶ講習会や放課後講座等を開き実力の養成を図る	①授業アンケートで、本人の取組、理解度に関して肯定的な回答率80%以上を目指す ②SSシートの活用やこまめな面談により生徒個々の目標を把握する ③定期考査の2週間前より学習計画を立てさせ各学期の欠点保有者数・欠点総数を昨年の半分以上(約30名・90科目)になるよう指導する ④実力養成講座を継続的に受講するよう指導する	①7月及び12月実施の授業アンケートで、本人の取組、理解度に関して肯定的な回答率の平均が68%から55%に低下した、目標は全く達成できなかった ②SSシートの活用や丁寧な面談実施により、生徒個々の進路目標等は十分に把握できた ③1学期の欠点保有者数は16名、欠点総数は29科目、2学期の欠点保有者数は22名、欠点総数は37科目で目標は達成できた ④実力養成講座を継続的に受講するで大半の生徒の進路目標が達成できた	C	①授業についていけない生徒に対し教科担当と連携をとりながら学年として放課後の補充講座を行う ②担任・副担任の負担が大きいため校務分掌を含めた仕事分担の見直しを検討 ③継続して実施していくとともに保護者との連携により家庭学習の定着を図る ④進路実現に向けての意識付けや調査を重ねて行い継続して実力養成講座を実施する	
	生活指導について	○きれいに制服を着用させる ○正しい言葉遣いを身に付けさせる ○ルールや期限を厳守する等、規範意識を高め基本的生活習慣を確立させる ○自校に誇りをもつ生徒を育てる	①積極的な生徒指導を行い問題の早期発見早期対応に努める ②道徳教育、人権教育を行い人としての在り方生き方を大切に育てる ③生徒の自主性を育て学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる ④遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で緊密に連携し厳しく行う	①いじめアンケートを各学期に1回実施する ②学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する ③HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する ④4月から11月の1、2学期の遅刻総数を昨年の3分の2以下(80)になるよう指導し居残り指導を輪番制で毎日実施する	①いじめアンケートを各学期に1回実施できたものの生徒間の関係トラブル解決に向けて誠意取り組んだが最終的に本人が進路変更する最悪の結果を惹起させた ②学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施できた ③HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供できた ④1学期の遅刻総数が242、2学期の遅刻総数が353で目標は達成できず、むしろ大幅に増加した	C D	①いじめに関するアンケートから得られる内容には重大なものがあっても学期に1回は実施し生徒の状況把握に努める ②学年集会や道徳HRを学期1回以上実施し規範意識の向上や学年行事への参加目的や意識の明確化を図る ③HRや学年集会等で生徒が自主的に活動できる機会を多数提供する ④遅刻指導のあり方を見直すとともに家庭との連携を強化し遅刻・欠席を減らす方策を考える	
	進路指導について	○進路目標を実現し、卒業後社会に貢献できる生徒を育てる	①キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の具体的な進路目標を立てさせ将来設計を行う ②各種検定試験、資格試験に挑戦させる ③進路指導部や教務部と連携し学力補充講座や放課後進路講座で学力と意欲の向上を図る	①進路関係の行事へ積極的に参加させ、SSシートや進路のしおりを活用し、個々の生徒の状況を把握して進路指導を行う ②英検、漢検等資格検定を1つ以上もつ生徒の割合が50%以上を目指す ③学力補充講座や実力養成講座を継続的に実施する	①進路関係行事へ積極的に参加させることができた、SSシートや進路の手引きを活用し個々の生徒の状況を把握して進路指導を行うことができた ②英検、漢検等資格検定を1つ以上もつ生徒の割合が50%以上を目指したが、英検4名漢検47名、合計51名でその割合は31%にとどまった ③学力補充講座や実力養成講座を継続的に実施することができた	C	①SSシートや進路の手引きを継続して活用し進路指導・生徒指導に結び付けた ②英検、漢検など資格検定を1つ以上持ち、オープンキャンパス等への参加生徒の割合が50%以上を目指すようにさらに努める ③実力養成講座を丁寧に実施できたが各自の進路の実現に向けてさらに多くの受講者の参加を図っていく体制を構築したい	